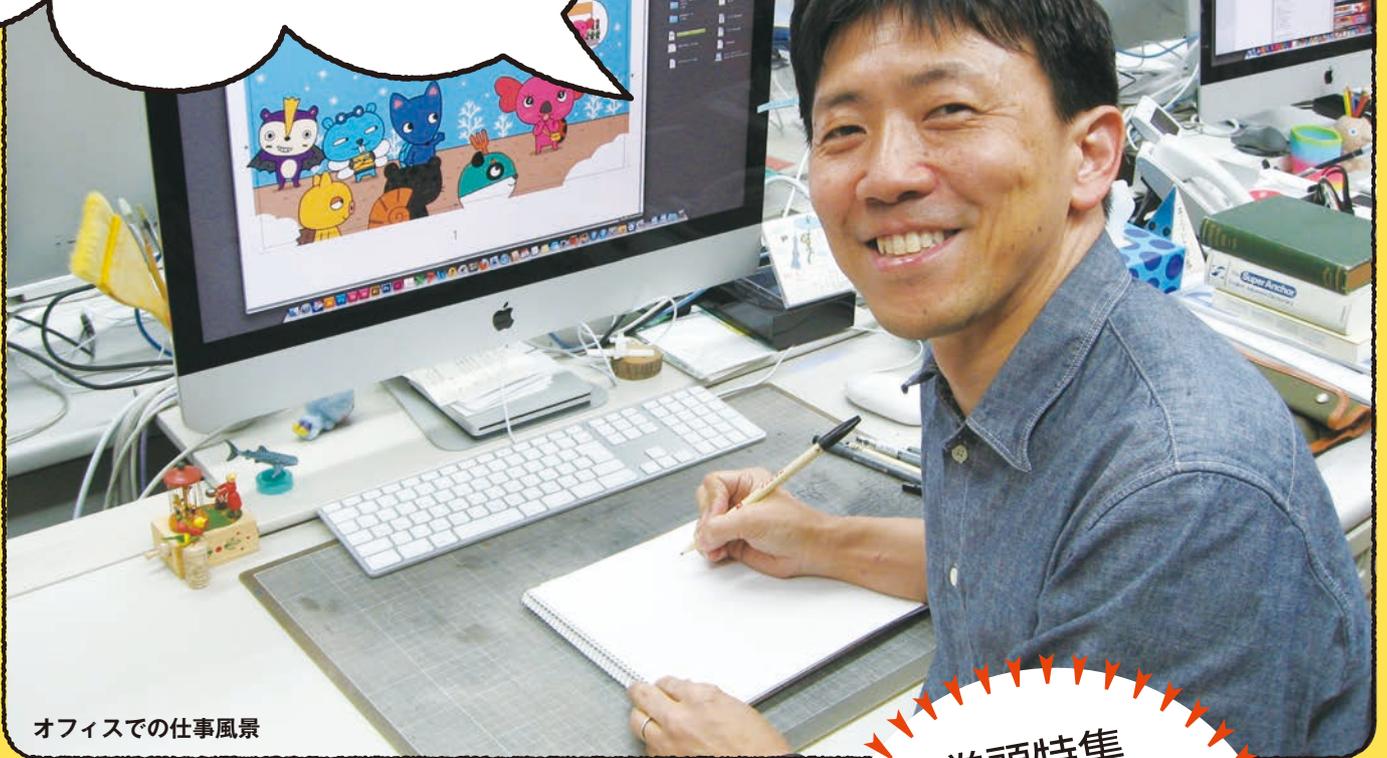


「生きる力」は、
“そうぞう力”だ!

→ 想像&創造



オフィスでの仕事風景

巻頭特集

インタビュー

(HAPPY CREATOR)

たかい よしかず
さん

これから生きる
子どもたちに
伝えたいことは？

これから子どもたちが生きていく上でいちばん必要な力は、「そうぞう力」だと思っています。そうぞう力には、思うほうの「想像」と、創るほうの「創造」の二種類があります。まずは頭で考える想像、その頭で考えたことを形にいくのが創造です。この二つの「そうぞう力」さえあれば、生きていけると思います。

日本は、特に資源の少ない国です。この国にとっての資源は、人間が考えること、そしてそれを形にいく力だと思います。だから、これからの子どもたちはそれらの力をしっかり身につけて、世界の役に立つてほしいと思います。

『怪談レストラン』シリーズ誕生秘話

20年ほど前のある日、「怪談の本をつくりたいんですが、絵を描いてくれませんか?」と出版社から連絡が来ました。でも、僕の絵のタッチから、怖い絵は描けないと断ったんです。そうしたら、「絵は可愛くてちょっとだけ怖い感じにしたいんです。」との話だったので、引き受けることにしました。

怪談の本だから、お化けの絵を描けばよいと勝手に思っていたのですが、いざ原稿を読んでもたら、出てくるのはお化けよりも人間がとても多くて、愕然としました。なぜなら、人間を描くのがすごく苦手だったからです。でも、ここで断ったら、こんな仕事に二度と巡り合えないと思い、練習に練習を重ねて、何とかスタートすることができました。最初は全5巻の予定でしたが、ありがたいことにとっても評判がよくて、最終的には全50巻のロングセラーになりました。



『幽霊屋敷レストラン』童心社
松谷みよ子他・文

Profile

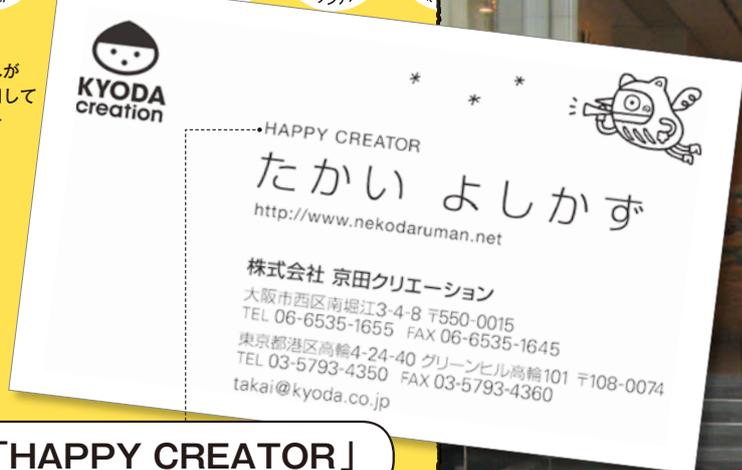
1961年 大阪府生まれ
1983年 大阪芸術大学デザイン学科卒業
1984年 京田クリエーション入社
現在 京田クリエーション代表取締役

明治「マーブル チョコレート」キャラクターの「マーブルわんちゃん」、兵庫県西宮市観光キャラクター「みやたん」など、多くのキャラクターデザインを手がけるとともに、イラストレーターとしても活躍している。主な作品に、『怪談レストラン』シリーズ(童心社)の装丁・挿し絵、『おはなし・くろくま』シリーズ・『わくわく・くろくま』シリーズ(ともにくもん出版)などがあり、多くの作品が子どもに大人気。見た人を元気にする作品づくりがモットー。



Interview!

たかいさんが
実際に使用して
いる名刺▶



大手前大学 アートセンター(兵庫県)
作品展にて(2012年)

「HAPPY CREATOR」



ハッピークリエイターという
肩書きへの思いは？

イラストレーターとして入社して、その肩書きで仕事をしていたのですが、あるとき、「イラストレーターという仕事の域を超えてもっと人を楽しませる仕事をやってみたい!」と思って、その思いに合う肩書きを自分で考えることにしました。

ある本を見ていてピンときて、「ライフデザイン」(デザインの中で人の生活を楽しむ



たかいさんは、
どんな子どもでしたか？

幼稚園のころから絵を描くのが好きでした。小学生になって、将来の仕事を考えるときに思ったのは、まずは「マンガ家」でした。手塚治虫さんにあこがれていたからです。それがだめだったら、「昆虫博士」になろうと思っていました。虫捕りばかり行っているほど虫が大好きだったもので、でも、昆虫博士がだめだったら怪獣博士でもいいかって感じでした。怪獣博士なんて仕事があるかどうか分からせんでしたが(笑)。

幼稚園のころから絵を描くのが好きでした。小学生になって、将来の仕事を考えるときに思ったのは、まずは「マンガ家」でした。手塚治虫さんにあこがれていたからです。それがだめだったら、「昆虫博士」になろうと思っていました。虫捕りばかり行っているほど虫が大好きだったもので、でも、昆虫博士がだめだったら怪獣博士でもいいかって感じでした。怪獣博士なんて仕事があるかどうか分からせんでしたが(笑)。



小学生のときに影響を受けた
先生はいますか？



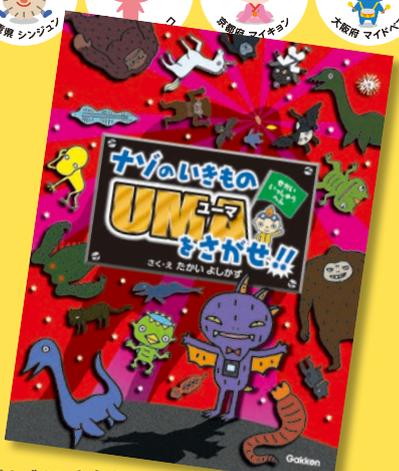
幼稚園の頃のたかいさん

七時ごろまで虫捕りをして帰ったら、親に「帰るのが遅い!」と怒られ、鍵をかけて外に締め出されたのですが、そのまままた虫捕りに出かけたなんてこともありました。両親が共働きであまり家にいなかったため、一日に八時間くらいテレビばかり見ていました。勉強は嫌いだったので、ほとんどしなかったですね。

五・六年生のときの担任の、井上みどり先生です。大学を卒業して二年目くらいのは、つらつとした元気いっぱい先生でした。僕らはわるさをたくさんしましたが、全力で叱ってくれました。井上先生は僕が唯一好きだった科目の図画工作に力を入れていて、僕は結構よい点をつけてもらっていました。それが嬉しくて先生が好きになったのかもかもしれません。

あるとき井上先生が、みんなに読書グラフを見せて、「図書室に行つて本を読んで、一冊読んだら、グラフを一目盛りなさい。」





『ナゾのいきもの UMA(ユーマ)をさがせ!! せかいいっしゅうへん』 (たかいよしかず著:学研プラス)

中学生のころ、UFOや未知の生物が好きで、そういう本ばかり読んでいました。その

仕事をしていた、
「嬉しい! 楽しい!」
と思いつつは何ですか?」

と指示を出したのです。勉強が苦手な僕は、
こういうときに点数を稼がないといけないと思
い、読書は好きではありませんでしたが、
図書館に行くと、最初はとりあえず興味があ
るSFから読んでいきました。そしてSFの
次に手に取ったミステリーで、本の面白さに
気づき、本の世界にとどっぷりはまったん
です。僕は、話の内容が映像として頭に浮かぶ
のですが、こんな本を小学生が読んでいいの
かと思うほど怖かったです。でもすごく面白
く、それから、いろんな本を読み始めて、読
書グラフもどうでもよくなって、市立図書
館にまで行って好きな本を借りて読むよう
になりました。本が読めて、少しは勉強を
するようになったんですね。



子どもたちに
どんなことを伝えたいですか?

後、学研発行の『ムー』という雑誌が発刊さ
れて、心霊や超常現象を研究されている並木
伸一郎さんという人が出ていたので、大人
になって、たまたま学研のお仕事をす
ることになった際に、編集の人に「並木さん
に会いたいです!」って言ったら、会えること
になったんです。その上、僕が学研から出版
する予定になっていた謎の生き物探しの本の監
修を並木さんにしていただけることになり、
すごく嬉しかったです。

僕は勉強ができなかったからすごく思っ
てます。勉強や学校のテストができることよ
りも、相手の気持ちが分かることとか、自分
がされて嫌なことは他の人にもしいとか、そ
んな気持ちを大切にしたいって。
子どもたちから「どうして勉強しなくちゃ
いけないの?」ってきかれたときに、何て答
えられるだろうといつも考えています。もし
今きかれたら、「小さいうちにいろんなこと
を知って、自分が興味をもてることを一つで
いいから見つけるためだ。」と答えます。な
ぜなら、それを将来の仕事にできる可能性
があるからです。そのことを伝えてあげられ



小学校の先生に
どんなことを伝えたいですか?

先生には、公平に子どもたちを見てほ
しいと思います。そして子ども一人ひとりのよ
いところを見つけ出して褒めてあげてほしい。
僕も褒められて伸びてきたし、そのことが、
ここまで成長してきた原動力だったことを実
感しています。だから、勉強はできなくても
褒めて伸ばすことが大切なのだと思います。
悪いところを探すのではなく、よいところ
を見つけてという見方で子どもたちに接し
てほしいと、切に願っています。

らしいなと思っています。



制作した西宮市観光キャラクター
「みやたん」と
西宮震災記念碑公園(兵庫県)にて(2016年)
(たかいさんは西宮市在住)

光文書院学習シール「都道府県ご当地キャラ隊」制作秘話

元々、いくつかの方言キャラクターをつ
ついていたんです。このキャラクターをつくり
出す作業が楽しくて、「全ての都道府県の方
言キャラができると面白だろうな、それを
図鑑にしたいな。」と思いました。そうは
いっても47都道府県分を考案するのは、や
はり簡単なことではなく、相当の生みの苦
しみがありました。ご縁があり、やっと数
年前に国土社から『47都道府県方言キャラ
絵本』を発行することができました。
キャラクターづくりに苦勞したし思い入
れもあるので、図鑑に留まらず、何かに展
開し

たいと思っていたところ、光文書院から学
習シールの話をいただいたのです。全都道
府県の名所・特産品などのキャラクターも
合わせてつくっていたので、これが使える
のではないかと提案し、シールとして発行
しました。



*このページのまわりを囲むキャラクターは、このシールのキャラクターです。

